



市町村名	揖斐川町	学校名	揖斐川町立坂内小中学校			
校長名	竹中 芳和	対象学年	全学年	人数	12名	
活動名	「ふるさと体験活動」(総合)		時間数	50時間	継続年数	12年
題材	<ol style="list-style-type: none"> 1 自然環境 (山野・河川・動物・植物・その他) 2 歴史 (出来事・史跡・先人・その他) 3 文化 (芸能・芸術・民話・風習・その他) 4 地場産業 (農業・水産業・伝統工芸・その他) 5 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 6 その他 () 		[坂内川カワゲラウォッチング] [北海道開拓] [夜叉龍太鼓] [稲作体験・自然薯栽培体験] [坂内クリーン作戦] []			
複数年継続するための工夫改善	<p>総合的な学習の時間を中心にした小中9年間の一貫教育を行うことで、複数年継続のための工夫を行っている。小学校では、稲作・自然薯栽培や間伐・炭焼きなど坂内地区ならではの特色ある活動を体験することを重視している。体験を通じた活動をたっぷり行うことで、ふるさと坂内のよさを実感させる。そうした体験を土台として、中学生では、自ら主体的に地域にかかわる活動を位置付ける。具体的には、地域のお年寄りの方を招いたり訪れたりする活動を行ったり、坂内での北海道開拓の歴史を調べ、それを劇に表わし地域の方へ披露する活動を行ったりしている。また、小中合同の活動として、夜叉龍太鼓の取組を行い、これもまた地域の祭りなどで披露している。</p>					
<h3>1 ねらい</h3> <p>坂内の特色を生かした自然・伝統文化・地場産業などの体験活動を通して、ふるさと坂内のよさや魅力を体験するとともに、それを土台とし、地域へ自ら働きかける主体的な活動や地域にかかわる文化を創り上げる活動を通して、地域の人々との人間的なつながりを深めながら郷土を愛し誇りとする心を育む。</p> <h3>2 活動の概要</h3> <p>これまで本校では、小学校を中心に「カワゲラウォッチング」や地場産業にふれる「自然薯栽培」「炭焼き」「稲作体験」などの活動を、地域と連携協力して取り組んできている。中学校では、自ら主体的に地域にかかわる活動や文化を創り上げる活動を位置付けている。また、小中合同で、坂内の自然を守る「坂内クリーン作戦」や地域に受け継がれてきた「夜叉龍太鼓」を行っている。今年度は、以下の活動を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 65%;"> <p>(1) 自然を守る活動や地場産業を体験する活動</p> <p>カワゲラウォッチングでは、坂内地区を流れる坂内川で揖斐小の3年生とともに水中昆虫調査を行った。子どもたちは、きれいな坂内川を肌で感じ取るとともに、環境保護についても考えることができた。</p> <p>稲作体験では、坂内振興事務所や農家の方々の協力を得て、田植えから稲刈りまでを行った。田植えや稲刈りには、地域の多くの方々に関わっていただき、作業の仕方等について丁寧に教えていただいた。</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  <p>カワゲラウォッチング</p>  <p>稲刈り体験</p> </div> </div>						

また、今年度は、隔年で行う「自然薯栽培体験」を行った。現在では、地域で自然薯栽培を行っていらっしゃる方も数名だけとなり、非常に貴重な体験になる。6月に、坂内自然薯組合の会長さんを招き坂内独特の植え方で苗を植えた。秋の収穫をととても楽しみにしている。



自然薯栽培体験

(2) 中学生による主体的にかかわる活動や文化を創り上げる活動

主体的にかかわる活動では、地域のお年寄りの方と積極的にかかわる活動を行った。ふれあう会を自分たちで企画し、学校で交流会を行ったり一人暮らしのお年寄りのお宅を訪問し会話を楽しんだりする活動を行った。

地域にかかわる文化を創り上げる活動では、明治時代に行われた坂内から北海道への移住・開拓の歴史を調べ、それを劇に表わし地域の方へ披露するという活動を行った。地域の古老から聞き取り調査をしたり図書室にある本を調べたりすることで、事前に基礎知識を学んだ。そして、8月の下旬に、移住された方の組織である十勝坂内会の方との交流を目的とした北海道研修を行い、子孫の方から、開拓の苦労や喜びを直接尋ねる活動を行った。こうして得た材料をもとに、2学期から劇のシナリオづくりを自分たちで行い、劇練習に取り組んでいった。その劇を、坂内地区文化祭で地域の方へ披露したのである。



北海道研修



文化祭での劇披露①

(3) 小中合同で地域の文化や自然にかかわる活動

毎年5月頃から、小中合同の太鼓練習を始める。練習は中学生がリードし、上級生が下級生に打ち方を指導するのが伝統となっている。その太鼓演奏を、7月に行われる夜叉ヶ池道中祭という地域の祭りで披露した。

坂内クリーン作戦は、平成7年に保護者の呼びかけで始まり、以来伝統的な活動として連綿と実践されている。今年も、坂内の自然環境を守ろうと呼びかける看板を親子で作成し、国道沿いに設置した。その際、ごみ拾いや草取りなどの清掃活動も行った。自分たちの誇る坂内の自然環境について、親子で考え、環境美化を推進する機会となっている。



道中祭での太鼓披露①



坂内クリーン作戦

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

(1) 地域のお年寄りの方との積極的なかかわり

年2回実施の独居老人宅への訪問では、毎年定期的に訪れる中学生に会うのを楽しみにしている方が多い。継続して実施しているため、お年寄り顔なじみになっている中学生が多く、自然に世間話をしたり洗濯物を一緒に片づけたりする姿も見られる。また、お年寄りを学校に招く交流会も、毎年2回実施しているため、これもお年寄りにとって楽しみな行事となっている。一人暮らしで、普段話し相手も少ないお年寄りにとり、中学生とのふれあいは、貴重な時間である。



お年寄り訪問

(2) 地域への発信

小中合同での夜叉龍太鼓、坂内の歴史の劇などを、地域の祭り（夜叉ヶ池伝説道中祭）や地区文化祭で披露している。自分たちの地区に伝わる伝統的な太鼓演奏を聴いたり地区の歴史の劇を見たりすることは、地域の方にとり、地域の伝統を子どもたちが確実に引き継いでいることを感じられ、何ものにも代えられない喜びとなっている。

以下に、地域の方の感想を紹介する。

「思わず涙があふれてきました。当時の坂内村の人々の苦しい生活や開拓を成し遂げた喜びを、子どもたちがあれだけ熱演してくれて、胸がいっぱいになりました。この坂内の歴史を、子どもたちが劇に表わしてくれて、こんなに幸せなことはありません。」



文化祭での劇披露②

4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

小学生の時から長い取り組みの中で、自分自身の成長を、次のように感じている生徒がいる。

- ・「小学生の時は、何も考えずにただ太鼓を叩いていた。それが中学生になり、小学生と一緒にやるようになって、『私たちが引っ張っていかなければいけない』という責任感をもつようになった。」
- ・「小学校の低学年の頃は太鼓を叩くのが嫌だった。でも今は、坂内のために、見てくださる地域の方のために、リーダーとしてみんなをまとめ、太鼓を楽しみながら活動している。」



夜叉龍太鼓の練習

また、保護者からも、次のように子どもの成長を感じる声が届いている。

- ・「子どもたちは保育園の頃から太鼓をやっていますが、中学生になって、凛々しさを感じるようになりました。主体的に取り組んでいる姿から、やる気を感じています。」

こうした成長があるのは、地域とのかかわりの中で、地域の方からの励ましの声があり、地域の活性化に主体的にかかわっているという自負があるからだと感じる。



道中祭での太鼓披露②

最後に、高校進学のため、故郷を出ていかざるを得ない3年生の思いを紹介したい。

- ・「『毎年見ているよ。いつも元気をくれてありがとう』これは、私たちの夜叉龍太鼓を見た地域の方からの声です。私は地域みなさんに太鼓を通して感謝の気持ちを伝えたい、私たちの姿を見て元気になってもらいたいとい気持ちが年々強く大きくなってきました。
私は、小さいころからこの坂内に明るく力強い音を響かせてきた太鼓の音が大好きです。この伝統を、ずっと守っていきたいです。」

